

- 静岡県伊豆市は、「環境」「観光」「防災」のバランスがとれたまちづくりの考え方を基に、津波防災地域づくりの基本的な計画となる推進計画を、地域との話し合いを重ね平成29年5月に策定し、取組を推進しています。
- 静岡県は平成30年3月、伊豆市において「津波災害警戒区域(海のまち安全避難エリア※)」及び全国で初めてとなる「津波災害特別警戒区域(海のまち安全創出エリア※)」を指定し、区域の意味を正しく理解頂くための工夫等を重ね、警戒避難体制を整備しています。 ※( )内は、伊豆市が公募により決定した愛称。
- さらに伊豆市では、推進計画において『観光＋防災』のシンボリック拠点の整備・活用を検討しており、これまで整備した避難施設に加え、平成31年度からは観光の拠点としての活用も期待される温泉街での津波避難施設整備に着手します。

## 津波防災地域づくりの取組

- 伊豆市では、平成30年3月に津波災害警戒区域(海のまち安全避難エリア)及び津波災害特別警戒区域(海のまち安全創出エリア)を指定
- 住民や全国からの公募により区域の愛称を決定
- 津波災害特別警戒区域の指定は全国初
- 津波防災地域づくりの取組の一つとして、『観光＋防災』のシンボリック拠点の整備・活用を検討



愛称を定めて、津波災害警戒区域等に関する理解を促進

- 海のまち安全避難エリア【津波災害警戒区域】
- 海のまち安全創出エリア【津波災害特別警戒区域】



のぼりの設置



津波災害警戒区域等に関するチラシ

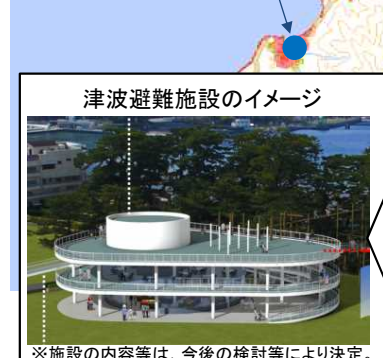
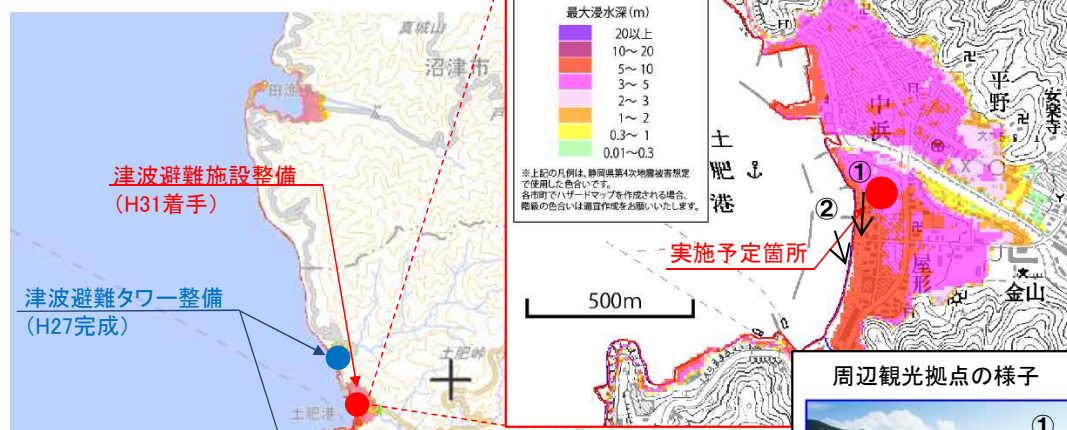
## H31防災・安全交付金による津波対策の例

### 安全に避難するための津波避難施設の整備

【市街地整備事業】

計画名: 津波対策まちづくり計画(防災・安全)

H31事業費: 当初9百万円



※施設の内容等は、今後の検討等により決定。

H31着手  
安全に避難するための津波避難施設の整備  
『観光＋防災』シンボリック拠点の整備  
・土肥地域の魅力を向上させる複合施設を目指す。  
・整備にあたって、地域住民等からアイデアを募る。

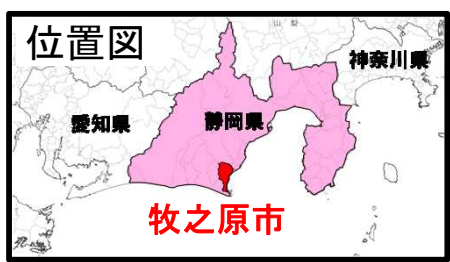
### 周辺観光拠点の様子





- 静岡県では、県内沿岸21市町全てに「検討会」を設置し、地域の实情に応じた津波防護のあり方を検討するなど、津波防災に係る地域の合意形成を丁寧に行いながら、レベル1津波に対応する防潮堤等の整備を推進しています。
- 牧之原市では、まず、津波から命を守る「逃げる」ことを重視し、浸水が想定される地域からの安全な避難を確保するための避難地・避難路を順次整備しており、平成31年度に必要な施設が確保される予定です。
- また、牧之原市沿岸ではレベル1津波の高さに対して防潮堤の高さが不足している区間が多く、整備の早期を実現するため、静岡県が順次海岸堤防の嵩上げを行っています。

## 津波防災地域づくりの取組



牧之原市では、地区ごとに津波対策の議論・検討の場を設置し、住民と行政職員から出てきたアイデアを積み上げて「津波防災まちづくり計画書」を策定。国、県、市の役割分担に基づき、ハード対策、ソフト対策を組み合わせた津波対策を推進。



### 【 避 難 実施主体：市】

津波から命を守る「逃げる」ことを重視し、避難施設12箇所、避難地・避難路23箇所などを整備

### 【多重防御その1 実施主体：国・県・市】

津波防潮堤整備（レベル1津波）の早期実現

### 【多重防御その2 実施主体：市】

レベル2津波から生命・財産を守る「命を守る防潮堤」

「津波防災まちづくり計画書」を策定

役割分担のもと津波対策を実施

## H31防災・安全交付金による津波対策の例

安全に避難するための避難路の整備

【市街地整備事業】  
計画名：津波・防災まちづくりの推進計画（防災・安全）  
H31事業費：当初74百万円

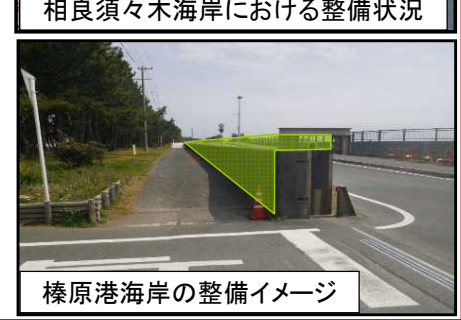
整備箇所

## 海岸堤防の整備

【海岸事業】

計画名	H31事業費
静岡県における地震・津波から命を守る海岸づくりの推進(防災・安全)緊急対策	当初1,278百万円(内数)
静岡県の港湾における安全・安心な海岸づくりの推進(防災・安全)	当初1,076百万円(内数)

レベル1津波による浸水を防止するため、海岸堤防の嵩上げを実施中





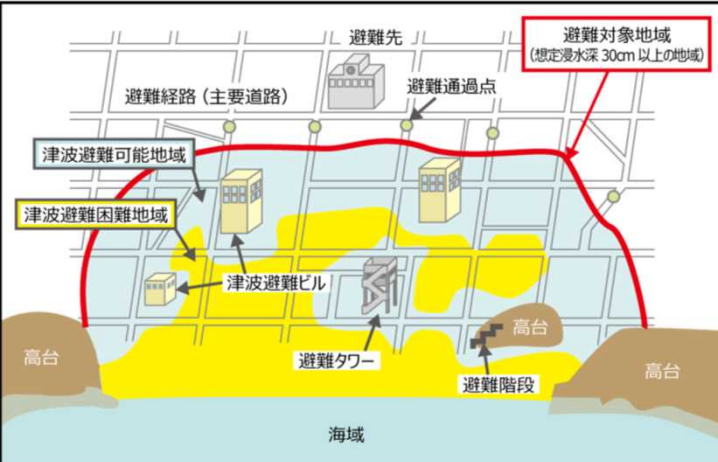
- 和歌山県では、南海トラフに近く地震発生から津波が到達するまでの時間が非常に短い特性から、「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」を策定し、「揺れたら逃げる」を啓発するとともに様々な地震・津波対策が講じられています。
- また、県19市町(平成30年11月時点)で津波災害警戒区域を指定するとともに、県最南端に位置する串本町では、これに加えて平成27年に津波防災地域づくり推進計画を作成し、最大クラスの津波に対し確実な避難を軸とした総合的対策を推進しています。
- 串本町における平成31年度の防災・安全交付金を活用した施設整備としては、和歌山県が、津波の第1波による浸水を抑制し避難の時間を確保するために必要な海岸堤防の整備を行うとともに、串本町が、これまで整備した避難所等に加え、津波で浸水が想定される区域からの避難にかかる時間を短縮するため、避難路を整備します。

## 津波防災地域づくりの取組



和歌山県は、地震発生から津波到達までの時間が非常に短い。  
 ■例: 串本町では7～13分で到達。

和歌山県による津波対策:「津波から「逃げ切る！」支援対策プログラム」により、地震発生から津波到達までに安全な場所への避難が困難な「津波避難困難地域」の解消を目指す。



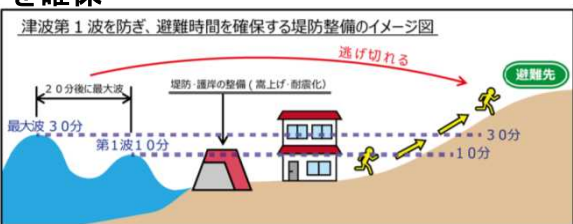
「津波から「逃げ切る！」支援対策プログラム」、「津波避難困難地域」のイメージ

## H31防災・安全交付金による津波対策の例

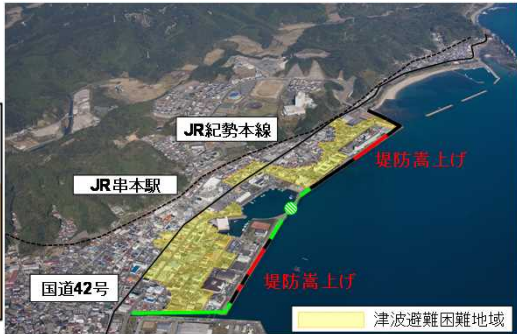
### 第1波による浸水を抑制するための海岸堤防等の整備

【海岸事業】  
 計画名: 和歌山県沿岸地域における総合的な浸水対策の推進(防災・安全)(緊急対策)  
 H31事業費: 当初1,132百万円(内数)

### 第1波の浸水を抑制することで避難時間を確保

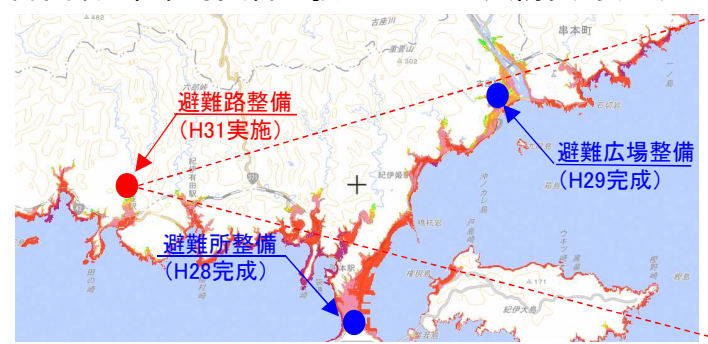


▲L1津波第1波高さによる堤防整備のイメージ



### 安全に避難するための避難路の整備

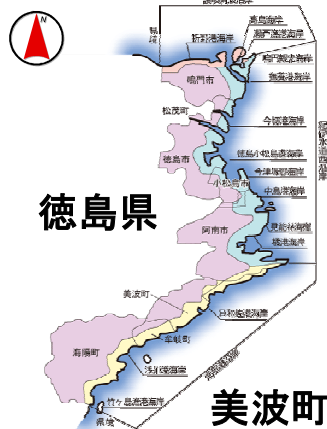
【市街地整備事業】  
 計画名: 串本町災害に強いまちづくり(防災・安全) H31事業費: 当初13百万円





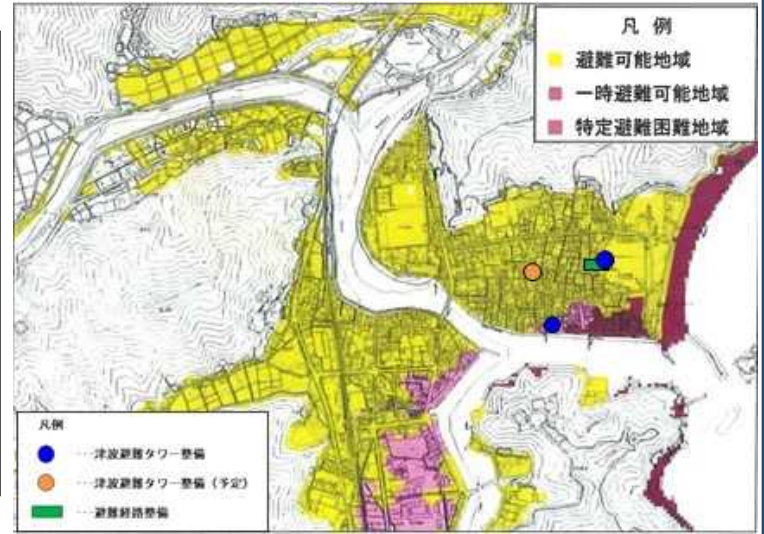
- 徳島県では、南海トラフ地震発災後、「死者ゼロ」を目指すことを基本理念として、ハード・ソフト両面から様々な地震・津波対策が講じられており、平成26年3月には津波災害警戒区域を指定し、津波に対する警戒避難体制を整備しています。
- 県南部に位置する美波町においては、地震発生後、約10分で津波が襲来することから、「レベル1津波による浸水を防止する海岸堤防の嵩上げ・耐震対策」と「避難時間を確保する河川施設整備」を、防災・安全交付金を活用して進めています。
- また美波町では、県の取り組みと連動し、「まず逃げる」の啓発や「防災訓練」等のソフト対策に加え、避難場所となる「津波避難タワー」、「防災公園」の整備、要配慮者利用施設の「高台移転」等を進めています。

## 津波防災地域づくりの取組



■徳島県では、津波に対する警戒避難体制の整備するため、平成26年3月に津波災害警戒区域を指定。

■美波町では地震発生から津波到達までの時間が非常に短いことから、住民の生命・身体の安全を確保することを目的に「美波町津波避難計画」を作成し、「南海トラフ巨大地震」による最大クラスの津波等のリスクに対して必要な取り組みを進めている。



## H31防災・安全交付金による津波対策の例

### ●河川・海岸堤防の整備

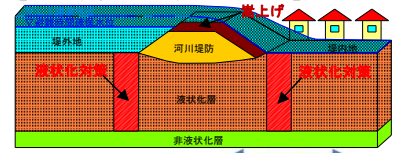
【河川事業(日和佐川)】 事業者:徳島県

計画名: 県土の水害に備えた基盤整備の推進(防災・安全)  
H31事業費: 当初3,154百万円

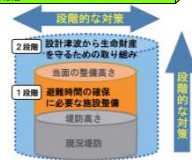
【海岸事業(日和佐港海岸)】 事業者:徳島県

計画名: 津波・高潮等の大規模自然災害を迎え撃つ強靱な県土づくりの推進(防災・安全)  
H31事業費: 当初662百万円の内数

【河川堤防の整備イメージ図】



<第1段階>  
避難時間確保水位  
に対する整備



### ●災害時の活動拠点となる高台の整備

【都市公園事業】 事業者:美波町

計画名: 災害に強いまちづくりと一体となった公園整備(防災・安全)

H31事業費: 当初313百万円

【計画位置図】

